



公立芽室病院 第75号

だより

ホームページアドレス
http://memuro.com
又は芽室町ホームページのトップページから
アクセスできます。

子宮頸がん予防はワクチンと検診で

産婦人科医長 谷 垣 学

子宮頸がんは最近20～30代で急増し日本人では年間15,000人の女性に発症しています。子宮頸がんは発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因です。HPVは性行為により感染しますが、特別な人だけが感染するのではなく、多くの女性が一生のうち一度は感染する、ごくありふれたウイルスです。HPVには15種類ほどのタイプがあり、その中でも16型、18型は子宮頸がんから多く見つかるタイプです。発がん性HPVは感染しても多くの場合、感染は一時的でウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長い間続くと、数年から十数年かけて前がん病変(異型細胞)を経て子宮頸がんを発症することがあります。ウイルスは一度排除されても繰り返し感染します。

昨年秋に、子宮頸がん発症の主要な原因である、発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)の16型と18型の感染を予防するワクチンが発売されました。この子宮頸がん予防ワクチン(サーバリックス)は全ての発がん性HPVの感染を防ぐものではありませんが、子宮頸がんから多く見つかるHPV

16型、18型のふたつのタイプのHPVの感染を防ぐことができます。しかしサーバリックスを接種しても16型、18型の発がん性HPVの感染を防ぐことはできません(一部効果のある型もあり)。また、接種時に発がん性HPVに感染している人に対して、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。上記のようにサーバリックスの接種時にHPV16型や18型の発がん性HPVに感染している人に対して、十分な予防効果は期待できませんが、同時に両方に感染している可能性は低く、HPV16型感染者はHPV18型に予防効果があり、HPV18型感染者は、HPV16型への予防効果が期待できます。また、発がん性HPVに感染しながらワクチンを接種しても症状の悪化などは報告されていません。

早期発見のためにも子宮頸がんの検診が必要です。ワクチンの接種は10歳以上の女性に是非とも受けていただきたいと思います。

接種料金 1回 15,000円

接種回数 3回(初回接種から1か月後に2回目、6か月後に3回目)

ワクチン接種は予約制です。

産婦人科外来において、来院または電話にてご予約ください。

不明な点は、産婦人科外来にお問い合わせください。(☎62-2811 内線213)

瞼が下がるお話(眼瞼下垂症について)

眼科医長 大西 通広

年齢とともに瞼が下がってくる場合がありますが、多くは老人性の眼瞼下垂です。これは眼を擦ったり、長年にわたるコンタクトレンズの脱着の繰り返し、女性ではアイラインを入れたり消したりすることなどによって瞼を吊り上げる筋肉(眼瞼挙筋)が徐々に外れ、瞼が上がらなくなる病気です。瞼が下がると視界が狭くなったり、ひどい時には瞼を手で上げないと物が見えないことがあります。初期には瞼の筋力の低下を補うために、おでこの筋肉を使うため、眉毛が片側だけ上がります。両側の眼瞼下垂があるときは、若いときに比べ眼と眉毛の間隔が広くなる場合があります。このように瞼が下がるのを代償するために常に筋肉が過剰に緊張した状態となり、場合によっては肩こりや冷えを訴える方がおられます。

治療は外れた筋肉を瞼に縫い縮め、筋肉の力を

回復させます。基本的には局所麻酔で行い、手術中に患者さんと相談して縫い縮める量を決定します。ほかには瞼につかえ棒をして挙上させるクラッチ眼鏡を用いる方法があります。

医療保険の適応は前述のように瞼が下がり視界が狭くなった場合と私は認識しておりますが、詳しい手術の相談は眼科や形成外科で行っています。なおクラッチ眼鏡については眼科を受診してください。

最後に、急に瞼が下がったり朝より夕方に瞼の下がる程度が強くなる場合や両目で見て物が2重に見えるときは、老人性眼瞼下垂ではなく脳動脈瘤や重症筋無力症などの病気が潜んでいることがありますので脳外科、神経内科なども受診することをお勧めします。

循環器内科(北斗病院) 出張外来お知らせ

当院では1月21日から、北斗病院循環器内科の協力を受け、血管の病気(脳梗塞や心筋梗塞など)の早期発見、早期治療を目的に循環器外来を始めました。

特に心臓血管に関わる病気に対しては、昨年導入された最新鋭のCTで冠動脈(心臓に栄養を供給している心臓をとりまく血管)造影検査や心電図、ABI検査(動脈硬化の検査)、エコー検査などを行い、心臓などの働きを調べ、必要に応じて治療につなげます。

循環器外来は、予約制ですので、あらかじめ当院の医師にご相談ください。当分の間、毎月第1、第3木曜日の午後が診療日時となっております。

なお、動脈硬化症、糖尿病、高血圧症、下肢症状、胸痛、心不全徴候などの症状がある方が主な対象となります。

地域医療公開シンポジウム開催

テーマ「医療を守る、病院を守る、医師を守る」
副題「医師不足の中、安心して医療が受けられるようにするには」

基調講演 講師 丹波新聞(兵庫県)記者 足立 智和氏

「もう限界や、子どもの命を守ることもなんかでけへんのや!」

会場 めむろ駅前プラザ2階セミナーホール
開催日時 3月27日(土) 13時30分～16時30分

兵庫県丹波地方の小児医療崩壊寸前の危機を目の当たりにした一新聞記者が仕掛け人となって地域のお母さん方が立ち上がり、試行錯誤をしながらも小児科医不在の危機をどうにか防いだ経過を熱く語ります。われわれ十勝に住む私たちもどこの町に住もうと医療崩壊の問題はひとつとではありません。一人ひとりが今、医療崩壊を防ぐために何ができるかを考える場としたいと思います。医療関係者だけに限らず、多くの地域の方の参加をお待ちしています。

詳細は3月の開催日前に新聞チラシ等にてお知らせいたします。

主催：十勝町村立診療施設協議会
お問い合わせ：公立芽室病院事務局庶務係 ☎0155-62-2811